

学界消息

史学研究会関係

例会 十月三日(土)午後一時

石川栄吉「ネアンデルタール人をめぐ
る昨今の諸説」

中原与茂九郎「ジュメールの土地所有につ
いて」

那波先生送別会 十月三日(土)午後四時

長年に亘つて当会のために尽力されている
那波利貞教授は、八月停年退官されたの
で、京大文学部史学科と合同で送別会を催
した。なお先生は九月名誉教授となられ、
今後も本会評議員として御尽力を賜わる。

京大國史関係

読史会例会 九月二六日(土)午後一時

於 楽友会館

朝尾直弘「幕末河内の地主経営」

末中哲夫「寛政の改暦をめぐる」

白木小三郎「河内広瀬村の調査より」

—近世初頭の計画聚落—

学界消息

読史会例会 十月十日(土)午後一時

於 楽友会館

今井美智子「近世中末期における江頭村
について」

脇田 修「近世における日置莊町につ
いて」

竹田聰洲「旧南部領の名子制度と民俗
信仰」

柴田 実「出羽修験道の一画」

京大東洋史関係

那波利貞教授退官記念講演会及び懇親会

十月十一日(日) 於京大楽友会館

宮崎、田村両教授をはじめとし、参会者は
七十余名に及び、なかなかうちにも盛大
に行われた。

講演

那波利貞「唐代の庶民教育における算
術科の内容とその布算方法に
ついて」

大学院研究会 十月十七日(土)

池田 誠「保甲法の成立——王安石の
新法の一問題——」

京大西洋史関係

西洋史研究室の最近の動向については、部
会活動の活潑化を特記しておかなければなら
ぬ。古代史班は目下古典語の研究に終始して
いるが、中世史班、近世史班の研究発表は次
の如く行われた。

一、中世史班 九月十二日(土)

馬淵卯三郎「バツハについて」

永井三明「チポルラのイタリア没落観
について」

西岡 豊「バイエルンにおける農民と
国家」

二、近世史班 九月十九日(土)

杉村和子「ドイツ市民社会と自由主義
の問題に関する一考察」

—詩人ハイネを中心とし
て—

京大地理学関係

人文地理学会第二回例会 九月十九日(土)

於 立命館大学地学教室

藤本利治(立命大)「琵琶湖西岸の農業地
域」

細井淳一(静岡大)「社会経済体制の進化

による農業経営形態の地理的分析——第二報——

日本地理学会大会 十月十(土)・十一(日)日

於山形大学

教室出身者並びに関係者からは次の如き発表が行われた。

公開講演

藤岡謙二郎「大都市域形成の二つのタイプ」

ブ

研究発表

浮田典良「日本の茶葉分布と宇治型茶業」

業

渡辺茂蔵「松ヶ岡開墾地の成立過程」

当麻成志「近郊山村の地域構造——第二報——」

報

西村陸男「地域設定についての一試案」

案

末尾至行「日本に於ける政治的意見の分布とその基礎」

分布とその基礎

宮川善造「地理的現象の現代性」

星野輝男「瀬戸内海大島の研究——第一報——」

一報

藪内芳彦「紀伊水道に於ける入漁の地理学的研究」

理学的研究

海野一隆「清代大運河漕運の地域的考察」

察

吉田敬市「朝鮮に於ける地理学の発達とその性格」

とその性格

浅井得一「滿洲に於ける人口都市集中度と都市化率」

率と都市化率

京大考古学関係

梅原教授の渡欧

梅原教授はパリにおける国際東洋学会出席のため、九月九日羽田を出発された。学会終了後、イギリス・アメリカ等を巡られる。豫定である。

執筆者紹介

黒田俊男 京都大学大学院特別研究生

笠井倭人 京都大学大学院学生

山岸義夫 群馬大学講師

別技篤彦 神戸商科大学教授

石原道博 茨城大学講師

牧貞次郎 京都学芸大学講師

前川真次郎 京都大学助教

小葉田淳 京都大学教授

新入会員

川端真治
木村省三
中島辰雄
金子和正

学習院大学図書館

東京都豊島区目白二丁目

大阪外国語大学

大阪市天王寺区上本町八丁目

お断り

新しい会員名簿ができ上りましたので、本号とともに、皆様のお手許にお送りいたします。つきましては、甚だ恐縮でございますが、名簿の実費三十円を御予約の金額から差し引かせていただきます。(なお、会費未納の方は次の御送金の際名簿代をおさえ下さい) 本会の運営も漸く好転してまいりましたが、会計面の裏づけの薄く今日、何卒御了承下さいますよう、お願いいたします。